

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900184		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都納所淀の家 1号館		
所在地	〒612-8279 京都市伏見区納所北城堀7番11		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは利用者の尊厳と自由を大切に、施設の枠にとられない開放的な環境の中で職員と共に穏やかで明るい生活を送れるように支援しています。地域の方々との交流を図るために、地域の保育園・小中学校の子供たちと利用者との交流の機会を設け、地域社会に参加できるよう連携を深めている。小規模多機能・グループホーム共に年間行事を計画し、利用者が季節・文化を感じ楽しく生活できるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市最南端、桂川と旧国道の間にある3階建ての建物で、満3年が経過したグループホームである。地域との連携に力を入れ、祭礼の神輿をかつぐ若者から「元気で生きろよ」と声をかけられたり、利用者の認知症によるPTSDの行動にも温かい目で見てもらえるようになっている。連携の取組が進み、その結果、運営推進会議に地域の幅広い人たちが参加し、サービス向上に向けた意見を出し、事業所を支えている。昨年1年間に偶然とはいえ3例のターミナルケアを実施することになり、家族、後見人等から、利用者の願いに添った最期をみおくることができたという言葉ももらっている。身寄りのない利用者も自身の思いを通し、安らかな最期を迎えている。意思表示の可能な元気な利用者が多く、職員はその願いを支援することを目指しており、利用者は思いを伝えればかなえられるという信頼感から穏やかな表情をしている。また利用者同士お互いのことをよくわかり、支えあう暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内で周知できるよう掲示し、共有実践へとつなげている。	「その人が地域のなかで自分らしく生活を共にするパートナーであるよう支援します」をグループホームの理念として定め、玄関に掲示し、職員研修を実施している。「行きたい」という利用者と近くを散歩していると、畳屋さんが外で仕事をしており、育てている野菜や花のことを利用者に話してくれている姿こそ、理念の実践だとリーダーは言う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会・自治会の行事参加により地域とのつながり、交流を行っている。	利用者はふだん近くを散歩し、地域の人とあいさつしたり、小学校の校庭で遊んでいる子どもたちと会話したりしている。保育園児との交流があり、中学生のチャレンジ体験を受け入れ、ゲームを楽しんだり、吹奏楽の演奏をしてくれるときは大喜びである。地域交流会の際にはバイオリン、和太鼓、獅子舞等のボランティアが来訪してくれる。與杼神社のお祭りの神輿が玄関に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での勉強会や地域交流会による関わりの中で認知症への理解へとつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多方面からの参加者も増え、意見や指摘等を踏まえサービス向上に活かしている。	家族、自治連合会会長、自主防災会会長、納所淀学区社協、提携病院地域連携室、ピノキオ保育園保育士、居宅介護支援事業所、あすかデイサービス、伏見区保護課、地域包括支援センター等、幅広い地域の人々の参加により、隔月に開催、記録を残している。「地域との連携は続けてほしい」「ヒヤリハットを大事にし、職員の気付きを促すように」「広報誌で職員紹介してほしい」等、サービス向上について貴重な意見をもらい、職員会議で検討し改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区担当者との連携に加え、ケースワーカー担当者と連携を図り、協力体制を築いている。	伏見区の担当課とは報告を怠らず、連携している。利用者に生活保護の人や後見人制度を利用している人等があり、伏見区保護課のケースワーカーと連携している。伏見区内に事業所連絡会は組織されていないので、同法人の連絡会に参加し、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について書面明記・マニュアル作成・職員研修を実施、基本施錠しているが短時間でも開錠時間帯を設け取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」を契約書に明記し、職員研修をしている。職員はスピーチロックについても認識している。玄関ドア、非常口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて認識・理解を深め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生保対象者・身寄りのない方が後見人制度を多く利用している為、制度について話す機会もあり後見人との連携により活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん解約時も説明等を丁寧に行い、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・行事の案内を行い参加へと促し、面会等も重なった場合に家族同士が交流できるように取り組んでいる。	ほとんどの家族は毎月来訪し、毎週来る人もある。カラー写真いっぱいの広報誌を毎月発行し、家族に喜ばれている。ホームで撮った写真は利用者ごとにアルバムにして家族に見せている。家族交流会の機会はない。	グループホームの運営を支えてくれる大きな力として家族は大切である。家族交流の機会をつくり、利用者と職員が暮らしているホームの様子をよく知ってもらい、家族に支えてもらえるようにすることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議・各ユニットでのミーティング実施、担当・委員会活動等、また個々でも機会を設け反映している。	業務の検討と事業所内研修をする職員会議を月1回、ケース検討をするフロア会議を月1回、全職員参加で実施している。事業所内研修は年間プログラムがあり、法人研修は段階的なカリキュラムに従って実施されており、該当者は参加している。職員は自身の目標を立て、会議で発表し、全職員が互いに励ましあいながら取り組んでいる。広報誌、事故防止、レク、消防等々の委員会活動を職員は分担している。「服のポケットに入っているものを出してから洗濯しよう」「使った道具はもとのところに戻す」等、職員は意見を出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修・資格取得を促し、資格手当や賞与査定などあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などの外部研修参加、法人内研修も月1回実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学により同業者との交流の場とし、地域周辺施設との連携も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に施設での生活に慣れ親しめるように配慮し、コミュニケーションを積極的に行い信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族もしくは代理人やケアマネ・相談員等を通じて情報収集し要望等の把握を行い、今後の信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から傾聴し抱えている問題点を把握することで、今必要としている支援順位を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする事を意識し、互いに気兼ねなく交流できるよう雰囲気づくりや信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や後見人等の存在や絆を大切に、利用者を共に支えていく信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・手紙・電話等の連絡方法を取り、入居前後の人間関係が希薄しないように支援している。	子どもに食べた「鮎ずし」を食べたいという利用者に同行し、そのころ住んでいた家の近くを探して店にたどり着き、念願を果たせた利用者は大喜びである。利用者の107歳の入院中の母をお見舞いに行き、2人とも満面の笑みとなり、同行した職員も喜んでる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	クラブ活動や行事等、生活の中でも利用者間のコミュニケーションを促し席配置や隣人関係を考慮した支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移行の際にも相談等に応じ適切なフォロー・対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や生活リズムを把握し家族等にも聞き取りなどして、利用者本位の希望や意向に沿えるよう努めている。	契約時には面接して利用者、家族、かかりつけ医や看護師等から情報を得ている。城陽市、大阪、神戸市等の出身地、4人兄弟の3番目、姉妹の姉、裁縫専門学校や大学卒等の学歴、管制塔建設、テーラー、工場勤務等の仕事歴、子どもは2人、パチンコ、裁縫、絵等々、生活歴や好きなことを聴取している。「手を使う仕事をしたい」「静かに暮らしたい」等、利用者の思いを記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染んだ生活道具などを使用することにより、今までに近い生活空間を維持。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間による利用者把握に努め、主治医との連携により心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員のミーティングや日々の申送りにて各位の問題点を抽出し検討、プランに反映させている。	介護計画は計画作成担当者、リーダー、管理者で作成し、職員に周知している。身体介護の他に「いろんな人とコミュニケーションをとる」「好きな絵を描く」「手仕事をする」等、暮らしのなかで生きがいとなるような項目を入れている。介護記録は介護計画の項目に沿って書いていない。モニタリングは介護計画の項目ごとに「介護の実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」の項目で毎月実施している。	介護記録は介護計画の項目ごとに、介護を実施したときの利用者の表情や発言、拒否があった場合はその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌の記録を通じて、情報を共有し利用者にあったケアへ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生保対象者の方や身寄りのおられない方に対しては随時、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域学区の行事、自治会の会合等に参加し地域生活・社会参加、地域交流会の開催により地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院・訪問歯科等による連携を密に医療面での安心確保している。	提携医療機関の勤務医でもあり、在宅医でもある医師が毎月往診にきてくれる。皮膚科、耳鼻科、眼科等の受診は家族が同行しており、リーダーが利用者の状況を文書にまとめ、医師に伝えている。歯科も訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院看護師・医療連携看護師と共に連携し対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院より往診をはじめ体調管理に関して、電話等の相談体制も整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設ハード面・ソフト面にも終末期・看取りは難しい為、最終的には医療機関への移行の旨を家族に伝え承し対応。	利用者のかかりつけ医等から終末期と診断された時点で利用者や家族に対して、提携医療機関の医師や看護師と管理者とが状況を十分説明し、意向を把握している。利用者や家族が延命を望まない場合、ホームとして最善の手立てを尽くし、家族や後見人の協力も得ながら、3人を看取っている。家族から喜ばれ、職員の自信につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員までとはいかないが、施設内研修をはじめ外部研修も励行している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進会議を通じ地域との連携を深め、消防訓練時にも地域の方も参加。	消防署と自主防災団の協力を得て、火事想定の日中1回と職員1人体制での訓練1回を実施している。水害時には3階に避難することを申し合わせている。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示しており、職員は危険箇所を認識している。災害全般について自主防災団から種々アドバイスを受けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いに配慮しつつ、利用者寄りそった声かけを行い人格や誇りを大切にしたい対応を心掛けている。	人生経験の長い利用者への尊厳と人格を尊重し、丁寧な言葉遣いと対応を心掛けている。排泄や入浴時のプライバシーに十分注意している。職員会議は利用者のいない場所で行い、職員同士の業務連絡は必ず事務所で行っている。利用者は自分の意志を表現できる人が多く、利用者の希望に添った介護をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の思いを聞き出しやすい入浴時等にゆっくり話を聞き、本人の気持ちを汲み取り選択して頂けるような関係づくりを行い、買い物や外出の提案を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康保持・清潔保持に配慮しつつ、入浴・入床等のタイミングを一人ひとりのペースに合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には職員がアドバイスしつつ、利用者を選んで頂き、希望の化粧品等を準備し、おしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は体調管理のため外部発注しているが誕生日や毎月リクエスト食・行事食を提供。片付け等、行える範囲で手伝って頂いている。	昼食と夕食の副菜は食材配達会社からの食材とレシピを使用し、ごはんと味噌汁と朝食は手作りしている。和洋中、肉や魚等バラエティに富んだ献立であり、季節の行事食もある。毎月2回くらいと利用者の誕生日は利用者の希望に応じた献立にし、買い物、調理等、利用者とともに楽しんでいる。寿司、どんぶり、お好み焼き等が人気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に摂取量などの管理を行い、食事形態・塩分調整・カロリー制限等を個々に応じたものを提供、職員も一緒に着席し食がすすむよう声掛け等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力の応じて自己で出来る限り行ってもらい、出来ない所を介助。定期的な歯科でのチェックとポリドントによる清潔保持も実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日を通して排泄チェック・排泄パターンの把握、声掛け・誘導し定期的に排泄用品の見直しも行っている。	排泄チェック表をつけることにより、利用者ごとの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。尿意のある人がほとんどであるものの、用心のためにリハパン、パットを使用している人もいる。入院中はおむつ使用だった利用者が退院後の支援により布パンツに改善している。排便もなるべく服薬に頼らない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には水分摂取と運動を勧めると共に、ドクターと連携し服薬等によるコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めず利用者の希望や体調に合わせて、また清潔保持できるよう対応を行っている。	その日の天気や行事の予定により、入浴は午前や午後にしており、希望が言いやすいように、多くの利用者に声掛けをしている。少なくとも週2、3回、入浴できるようにしており、好きな人は毎日でも入っている。拒否の人も3日を過ぎないように、声掛けに工夫している。足湯をすることもあり、続けてお風呂が好きになった利用者もいる。ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペース、体調に合わせ日中短時間での仮眠を勧める、夜間安眠できるように運動等を促すなど、個々に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬説明と副作用等の表をファイルをいつでも見れるようにしている。また服薬チェック表で服薬確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた作業・家事の手伝い等を行い、日々の外出や行事などで気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族による外出や日々の散歩、また行事による季節ごとの外出レクリエーションを含め、希望や意向を汲取り個別に外出の機会を設け支援している。	天気が良い日には「行きたい」という利用者の声で毎日のように桂川の土手に行き、季節の風を楽しんでいる。與杼神社への初詣、淀競馬場での花見、八幡への紅葉ドライブ等、季節ごとの外出の他に、木下サーカス、横大路公園等へもみんなで出かけている。オヤツが買いたい、靴が古くなったので等、利用者の個別の希望によって買い物に出かけ、支払い支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、本人・家族要望時には買い物等で支援している。希望があれば個別に、買い物等に出かけ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば電話・手紙のやり取りが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃による清潔保持とリビングには利用者と共に作成した飾り絵や塗り絵、季節に応じた壁画などを掲示し居心地の良い、家庭的な空間作りを行っている。	長い廊下の道路側に共用空間、反対側に居室が並んでいる。テレビの前のソファに利用者が縫ったクッション、数人掛けの食卓が2つ、窓は大きく明るい。認知症に影響するような大きな音や強い光はない。壁には行事の写真、歩行訓練をした日の印をつけた紙、手作りの大きなカレンダー、保育園児と一緒に利用者が楽しんでつくった大きなモミジの貼り絵等が楽しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルの他、ソファスペースなど利用者同士で会話したり、テレビ鑑賞したりできる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みのもの馴染のものを持ち込み、本人と相談しながら居心地の良い空間で過ごせるよう配慮している。	居室は洋間、大きな窓があり、季節の風景をみることができる。クローゼットがついており、利用者は着なれた衣類等をつるしている。整理筆筒の上に愛読書を並べる人、かわいい飾りや家族の写真を置いている人、仏壇の夫の位牌に毎朝お仏飯と水をあげ拝む人、愛用の化粧品をおき、身だしなみをする人、壁に掛けた布製レターボックスに家族の写真を差し込んで楽しんでいる人、ベッドに大きなぬいぐるみをおいている人等、利用者の居場所としてその人らしさのある居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、整理整頓を行い、安全に自由に行動できるよう工夫し、環境づくりを行っている。		